

RHYTHM

電波時計 取扱説明書 (報時付掛時計)

お買い上げいただきありがとうございます。
お使いになる前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
お読みになった後もお手元に保管して、必要に応じてご覧ください。

製造 発売元 **リズム時計工業株式会社**
〒330-9551 埼玉県さいたま市大宮区北袋町1丁目299番12
http://www.rhythm.co.jp

アフターサービスについて

この時計のアフターサービスは、お買い上げ販売店がいたします。次の記載事項と保証書をよくお読みの上、ご利用ください。

●修理部品の保有について
この時計の修理用性能部品（電子回路など）は製造打ち切り後、7年間を基準に保有しています。ただし、外装部品（ケース類）の修理には、類似代替品の使用や現品交換で対応させていただきます。

●修理可能期間について
無料保証期間が過ぎても、この時計の性能部品保有期間中は、原則として有料修理が可能です。修理の内容や送料により、修理代金が高額になる場合がありますので、販売店とよくご相談ください。

●転居または贈答品の場合
お買い上げ販売店でのアフターサービスが受けられない場合は、お客様相談室にご相談ください。保証期間中の場合は、販売店の保証書が必要です。

This product is intended for the Japanese market.
Service and technical support for this product are available only within Japan.

(Y1401)

おもな製品仕様

使用温度範囲 -10～50℃ *結露しないこと
時間精度 標準電波受信成功直後の表示精度 秒針 ±1秒 時分針 目盛りに対して±3度
標準電波を受信しない場合 平均月差±20秒（温度が5～35℃のときのクォーツ精度）
使用電池 表示用：単2形アルカリ乾電池 JIS規格 LR14 1.5V 2個
内蔵：リチウム電池 CR2032 1個
電池寿命 表示用：約1年 *標準電波の受信に成功し、報時を音量中位で17回/日使用したとき。
内蔵：5年以上 *通常では電池を交換する必要がありません。
報時機能 毎正時、30分に報時
報時精度 表示時刻に対して±1秒
報時音 電子音 選択方式
入/切/自動消音 3点切り替え *自動消音：明暗センサーと連動して暗所停止
音量調節 ロータリー式ボリューム
報時音モニター あり
暗所秒針停止 明暗センサーと連動して秒針が12時位置に停止
振り子 装飾用
電池交換時期 秒針が常時12時位置に停止
お知らせ機能

電波受信機能 標準電波受信による時刻修正
受信局 福島局/九州局 自動選択
受信ON/OFF ボタン操作
受信回数 最少 1日1回 最多 1日12回

標準電波受信開始時刻条件	回数	開始時刻
▶ 受信成功から72時間以内の場合	1～3回/日	AM 2:16:40、AM 3:16:40、AM 4:16:40
▶ 連続72時間以上受信に失敗している場合	12回/日	奇数時の16分40秒 例 AM 1:16:40、AM 3:16:40など
▶ 初めから受信に失敗している場合		
▶ 手動で時刻合わせをした場合		

●製品仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

付属品

電池	2個	リチウム電池（内蔵）	1個
木ねじ（大）	1個	木ねじ（小）	1個
取扱説明書	本書	保証書	1枚

お問い合わせ先

(フリーダイヤル)
お客様相談室 0120-557-005
受付時間 9:00～17:00（土日、祝日および当社休日を除く）

お問い合わせに際しては、時計裏面に表示しております製品番号(型番)をお伝えください。例 4MNA〇〇

この取扱説明書を許可なく複製、変更することを禁じます。
本製品を使用することによって生じたいかなる支出、損益、その他の損失に対してなんら責任を負いかねますのでご了承ください。

安全にお使いいただくためにはじめにお読みください

ここに示した注意事項は、あなたや他の人への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

必ず守ってください。

図記号の説明 ○は、禁止（してはいけないこと）を示しています。

●は、指示する行為を必ず守ることを示しています。

警告 死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容

●誤飲を防止するため、小さな部品や電池は、幼児の手の届く所に置かない

万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の治療を受けてください。

●電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために、次のことを守る

- 電池に傷をつけない。
- 電池を分解しない。
- 電池をショートさせない。
- 電池を充電しない。
- 電池を加熱しない。
- 電池を火の中に入れない。

●電池から液漏れが起きてしまったときは、素手でさわらない

●目や皮膚についたら、すぐに水道水でよく洗い流して医師の治療を受けてください。衣服に付着した場合は、すぐに水道水で洗い流してください。アルカリ乾電池の場合、失明や炎症などの障害が発生する危険性が高くなります。

●電池を外して、漏れた液を布や紙でよくふき取ってください。修理が必要なときは、お買い上げの販売店または当社お客様相談室にご相談ください。

注意 傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容

●電池の⊕⊖を正しく入れる
液漏れや発熱の原因となり、故障やけがの原因になります。

●強い振動や衝撃を与えない
故障や破損の原因になります。

●浴室やサウナ、温室など、高温・高温になる所では使わない
さびの発生や故障の原因になります。

●ぬれた手で触らない
故障や誤作動の原因になります。

●分解や改造をしない
けがや故障の原因になります。
分解禁止

●下記の様な場所では使わない
精度の低下、部材の変形、変色、劣化、故障の原因になります。

- 直射日光が当たる所。
- 暖房機器などの風が当たる所。
- 温度が+50℃以上の所。
- 温度が-10℃以下の所。
- ほこりが多く発生する所。
- 強い磁気が発生させる機器のそば。
- 車中や船舶、工事現場など、振動の激しい所。
- プール、温泉場などガスの発生する所。
- 調理場など多くの油を使用する所。
- ゴムや軟質のポリ塩化ビニルに長い間、直接ふれさせておくと、色移りや付着、変質することがあります。

電池のご注意（電池の正しい使いかた）

電池のご使用上のポイント 正しく使って事故をなくしましょう

- プラス（+）、マイナス（-）を間違えない。
- 古い電池と新しい電池を混ぜない。
- 種類の異なる電池を混ぜない。
- 時計が動いていても定期的に交換する。
- 長期間使用しないときは電池を取り外す。
- 時計が止まったらすぐに電池を取り外す。
- 電池に表示されている使用推奨期間内に使う。
- 電池を新しくするときは、全部取り替える。
- 幼児の手の届かない所に置く。

電池の寿命について

●付属の電池は、お試用として工場を出荷するときに入れてありますので、製品仕様より短い期間で電池切れになることがあります。

電池の種類について

- アルカリ乾電池とマンガン乾電池は形状的に互換性があり、一般にアルカリ乾電池のほうが長持ちします。
- 一般に充電式の電池は電圧が低く、時計には不向きですので使用しないでください。

電池、製品の廃棄

- お住まいの地区自治体の指定に従ってください。
- 電池と時計を分別して廃棄してください。

お手入れについて

- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤や石けん水を、やわらかい布に少量つけてふき取り、その後、からぶきしてください。
- ケースなどの汚れ落としに、ベンジン、シンナー、アルコール、スプレー式クリーナー類は、使用しないでください。
- 静電気により、時計や掛けた壁面が汚れることがありますので、定期的に汚れを落としてください。

電波時計について

電波時計とは

クォーツ時計に標準電波を受信する機能を搭載し、標準電波を受信することにより、自動的に正確な時刻に修正する時計です。

標準電波とは

標準電波(JJY)は、日本標準時(JST)をお知らせするために、情報通信研究機構が運用している電波です。

※標準電波の時刻情報は、およそ10万年に1秒の誤差という「セシウム原子時計」によるものです。

標準電波送信所は、福島県の「福島局：おおかたどや山標準電波送信所」と佐賀県と福岡県の県境にある「九州局：はがね山標準電波送信所」の2カ所にあります。

標準電波の詳細については、情報通信研究機構のホームページをご覧ください。
(http://jjy.nict.go.jp)

標準電波の送信停止について

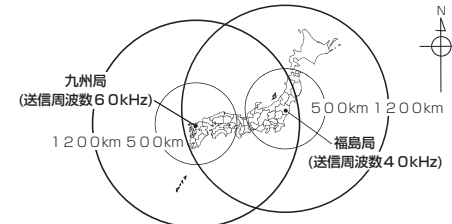
送信所の定期点検や落雷などの影響により、標準電波の送信が停止することがあります。標準電波の送信状態については「情報通信研究機構」のホームページをご覧ください。

海外でのご使用について

この時計は、日本以外の標準電波は受信できません。海外でのご使用になるときは、電波受信機能をOFFにして手動で時刻を合わせてください。電波受信機能をONのまま使用すると、まれに日本の標準電波を受信し、日本の標準時を表示したり、ノイズにより誤った時刻を表示することがあります。

電波の受信範囲について

送信所から約1200km離れた場所でも受信可能です。ただし、受信範囲であっても電波障害(太陽活動、季節、天候、置き場所、時間帯(昼/夜)あるいは地形や建物の影響など)により、受信できないことがあります。

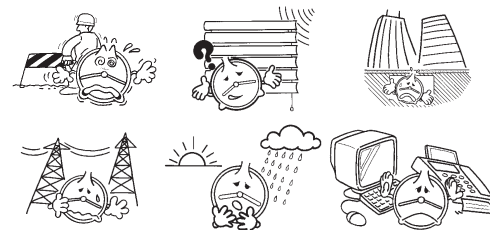


この時計は福島局と九州局に対応しており、標準電波を自動選択して受信します。

電波を受信しにくい環境

次のような場所では受信できない場合や誤った時刻を表示することがあります。

- 工事現場、空港の近くや交通量の多い所など電波障害の起きる所
- 金属製の雨戸やブラインドの近く
- ビルの中、ビルの谷間、地下
- 高圧線、テレビ塔、電車の架橋近く
- 朝夕の時間帯、雨天のとき
- 家電製品やOA機器の近く
- スチール机等の金属製家具の上や近く



このようなときには、電池の交換が必要です

○針が動いているのに報時をしない。(報時スイッチは報時入または自動消音)

○時間が合わない。
電池の残量が少なくなると標準電波の受信を行いません。

○針、振り子が止まった。
○電池を入れて1年が経過した。(1年に1回定期的に交換してください。)

時計を壁から取り外すときのご注意

- ①振り子を取り外す。
- ②振れ止めの木ねじ（小）を取り外す。

注意 電池の交換 早めに交換して液漏れを防ぎましょう

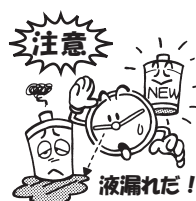
電池からの液漏れにより、時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために次のことをお守りください。

●時計が停止したときは、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。

●古い電池と新しい電池、種類の異なる電池を混ぜて使わない。

●電池の⊕⊖を逆に入れない。

※報時機能を使用しないと電池が長持ちしますが、液漏れが発生しやすくなりますので、定期的に交換してください。



明暗センサーのはたらき..... 暗所自動消音

報時スイッチが自動消音のときは、明暗センサーに連動して暗くなると報時を停止します。

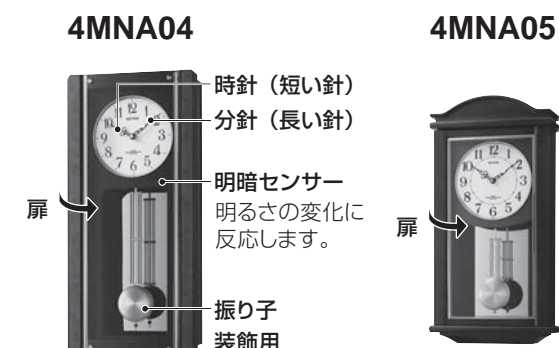
昼間や夜間の照明時でも明るさが不足するとセンサーが動きます。

静電気の影響について

静電気により、誤作動をすることがあります。このようなときには、強制受信ボタンを押してください。

各部の名称と役割

○図は操作説明用ですので実際の商品と異なることがあります。

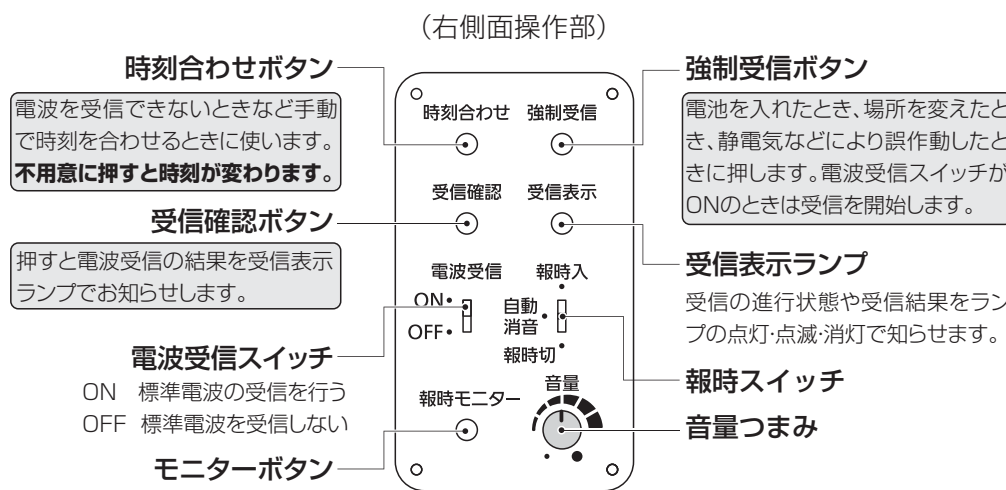


注意
時針と分針に手を触れないでください。時間違いの原因になります。

針の動き
時針・分針：10秒に1回動きます。
※自動受信で時刻を修正するときは、早送り、順方向または逆回りしたり、停止することがあります。

注意 扉は磁石で固定しています。時計を掛けるときなど、扉を下向きにすると、扉が開くことがあります。扉を押さえて操作してください。

警告 磁気式カードや医療機器など磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データの消失、誤作動、故障の原因になります。ペースメーカーなどの医療機器の場合、人命にかかわる場合があります。



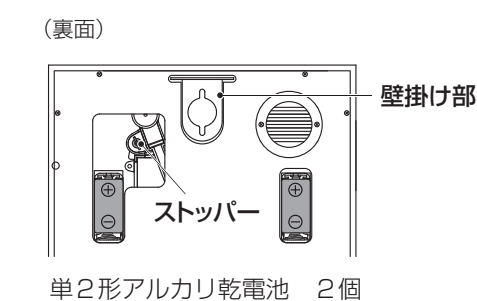
電池を入れるときは、大きな音で音が七無いように、報時スイッチを「報時切」、音量を最小にする。

表示用電池のセット

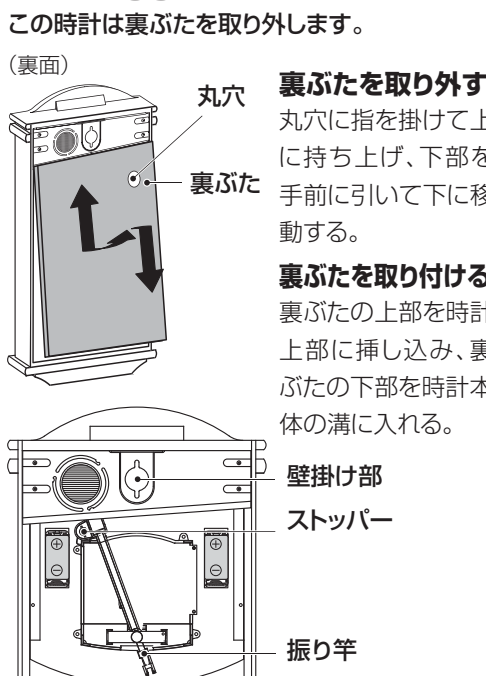
電池ホルダーの⊕⊖表示に合わせて入れる。

注意 電池の⊕⊖を逆向きに入れると電池の発熱、破裂、液漏れの原因になります。

4MNA04



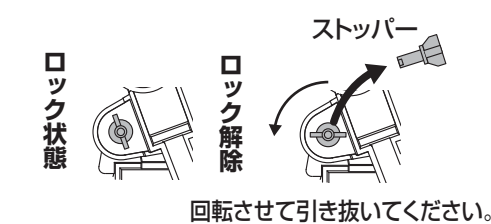
4MNA05



ストッパーの取り扱い

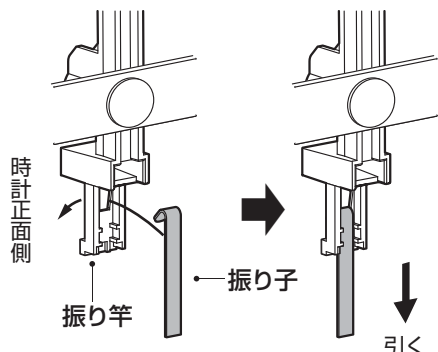
ストッパーは機構を保護するものです。使用するときは、取り外してください。

輸送する際は、必ず取り付けてください。

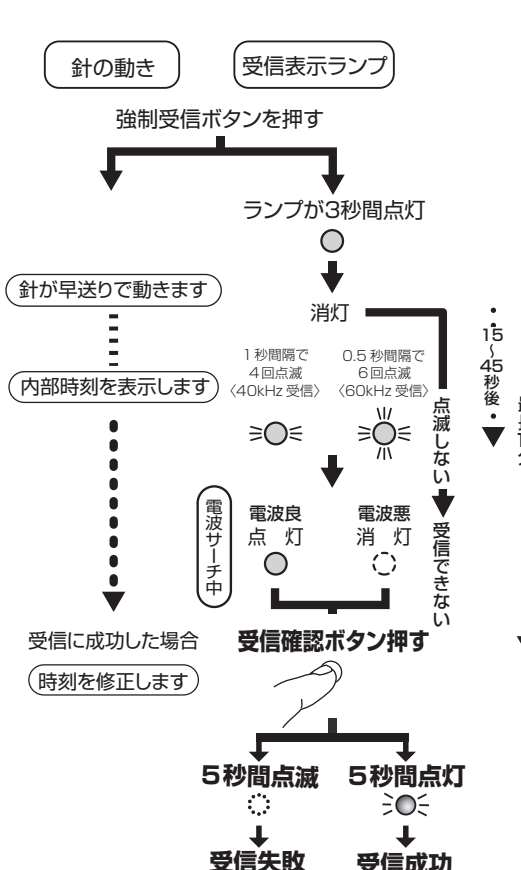


振り子の取り付け

- 扉を開ける
時計を掛けたままで、扉を開くと時計が傾くことがありますので、注意してください。
- 振り子を取り付ける
- 扉を閉める



標準電波を受信の流れとサーチ機能の使いかた



電波サーチ機能は、受信表示ランプの点灯または消灯により、時計がある場所の電波状態をお知らせします。

サーチ機能を使用するときの手順

- 窓際やベランダなど電波の受信しやすい所に時計を移動
- 強制受信ボタンを押す
受信表示ランプが約3秒間点灯後に受信を開始。針は早送りで移動し、時刻を表示します。
- 受信局を表示後、受信表示ランプが点灯したら、設置したい場所に時計を移動
- 電波状態を確認
点灯：電波良好→受信できる可能性大
消灯：受信できない→時計を移動させてください。
○点灯と消灯が繰り返される場合は電波が弱いです。受信に失敗する可能性があります。
○電波サーチ中に、時計の向きや位置を変えると受信表示ランプの状態が変化します。
- 受信開始からおよそ15分後に受信確認ボタンを押して受信結果を確認
受信成功：5秒間点灯
受信失敗：5秒間点滅

- 受信に成功してもノイズにより誤った時刻を表示することがあります。このようなときは、場所を変えて強制受信ボタンを押してください。
- 受信に失敗している場合は、表示されている時刻は正しくありません。

標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくと受信できる可能性が高くなります。
- 場所を変える／受信をやり直す
電波の受信しやすい窓ぎわや取扱説明書の日本地図を参考にして、時計の正面または裏面が電波の送信所に、なるべく向くようにして、強制受信ボタンを押して再度受信を行ってください。
- 時刻を合わせて使用する
ベランダなど屋外で電波の受信に成功させるか、手動で時刻を合わせて使用してください。受信できないときの時間精度は、クォーツ精度になります。

手動での時刻合わせ……受信できないときや任意の時刻に合わせて

- 時刻合わせボタンを操作することにより、手動で時刻を合わせることができます。
- ※時刻合わせボタンを離しているのに、針が早送り動いている場合は、通常の針の動きになってから操作してください。
- ※電波受信スイッチがONのときは、受信に成功すると時刻を自動的に修正します。
- 時刻合わせボタンを押すと、時針・分針が動きます。
- 時刻合わせボタンを押してすぐに離れた場合は1分進みます。
- 時刻合わせボタンを押し続けると早送り動きます。

ご使用方法

標準電波を利用しないで、手動で時刻を合わせる場合は、**手動での時刻合わせ**を参照してください。

この時計は、時刻を合わせて出荷しております。
単2形アルカリ乾電池を入れてから強制受信ボタンを押してください。
強制受信ボタンを押してからおよそ3分以内に時刻を表示します。
※時刻合わせボタンを押さないでください。押すと時刻が変わってしまいます。
※時刻を表示する前に針が一時停止したり、順方向または逆回りで早送りしたりします。
○電波を受信しやすい際際際で使用ください。

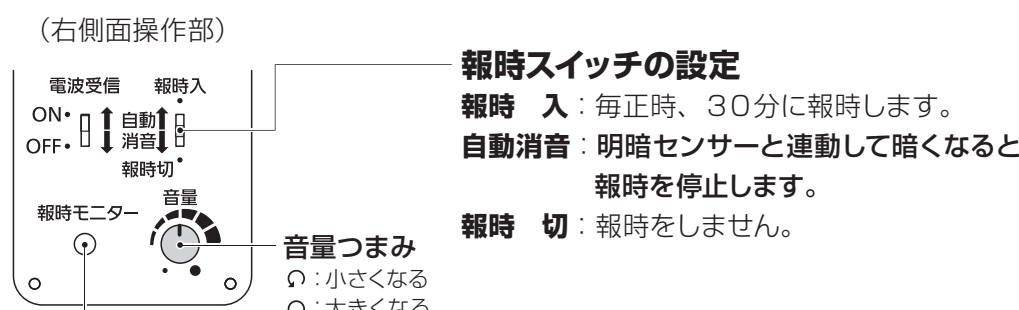
- 電波受信スイッチがONになっていることを確認する
OFFになっているときはONにしてください。
- 表示用の単2形アルカリ乾電池を2個入れる
- 強制受信ボタンを押す
- ストッパーを取る
- 時計の掛けかたに従って時計を掛ける
- 振り子を取り付ける

○報時機能を設定してご使用ください。

標準電波の受信結果の見かたは、**標準電波を受信の流れとサーチ機能の使いかた**を参照してください。

報時機能の設定

報時は、毎正時に時刻に応じた数のチャイムが鳴ります。たとえば、12時のときは、チャイムが12回鳴ります。また、30分にはチャイムが1回鳴ります。



報時モニターボタン

音量の調節

報時モニターボタンを押して、報時している間に音量つまみを回して調節します。

報時音の試聴

報時モニターボタンを押すと報時音を奏でます。報時は時計が指している時刻に対応します。たとえば、3時35分のときは3時の報時音が鳴ります。
※手動で時刻を合わせた直後は、チャイムの数が合わないことがあります。

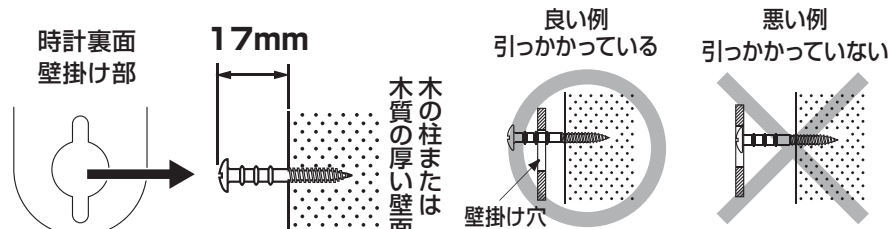
時計の掛けかた

注意 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。

- 掛けたときは、上下、左右に軽く動かして、掛け具（木ねじ）に壁掛け部がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れるおそれがあります。
- 壁掛け部以外に掛けないでください。
- 市販の掛け具を使用するときは、壁掛け部にしっかり掛かるものを選んでください。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に設置してください。

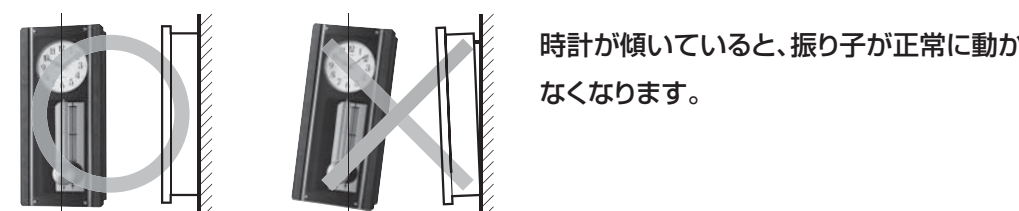
木の柱または木質の厚い壁面の場合

- 付属の木ねじが使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。
- 木ねじは下図のとおり、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。



その他の壁面の場合

- 石膏ボードやコンクリートなどの壁面に掛ける場合は、壁の材質・構造と時計の重量に合った、市販の掛け具をご使用ください。その際、粘着式や吸盤式は時計が落下する危険がありますので、使用しないでください。



振れ止めを固定してください

扉を開閉するときに、時計が傾くのを防ぐため、時計底面の振れ止めを木ねじ（小ねじ）で固定してください。木ねじは木の柱または木質の厚い壁面用です。

時計を垂直に掛けてから振れ止めをねじで固定してください。



内蔵電池による時刻のバックアップ

この時計は、工場出荷時に電波を受信させ、内蔵電池により時を刻みつけています。表示用電池を入れて強制受信ボタンを押すと、およそ3分以内に内部時刻を表示します。表示用電池が消耗したときや取り外したときは、内蔵電池に切り替わります。
※内蔵電池のみでは、針による時刻表示や報時を行いません。
※電波受信スイッチがOFFに設定されているときは、受信を行いません。
※表示用電池により時刻表示がされているときには、内蔵電池を使いません。
※通常の使いかたでは内蔵電池の交換は不要です。

電波受信機能のON/OFF切り替え操作

電波受信スイッチをONにすると、定期的に標準電波の受信を試み、受信に成功すると必要に応じて、時刻を修正します。
電波受信スイッチをOFFにすると受信を行いません。クォーツ精度になります。
※電波受信機能がOFFのときに強制受信ボタンを押すと、針が早送り動いたり、止まったりしてから時刻を表示します。